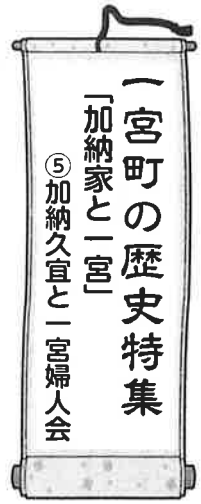


平成30年8月号



一宮町の歴史特集

「加納家と一宮」

⑤ 加納久宜と一宮婦人会

一宮婦人会は明治43年（1910）、加納久宜夫人の鑑子を会長に発足しました。写真は玉蔵寺での発足式の様子です。鑑子は大正2年（1913）に久宜によって私立一宮女学校が設立されると、講師となり女子教育に尽力しています。

婦人会の会員には、裁縫や手芸料理などの講習会が催され、講演会や視察旅行なども年中行事として行われました。鑑子は昭和16年（1941）に婦人会が一度解散される時まで会長として活動しています。

昭和初期、日本には「大日本国防婦人会」「大日本連合婦人会」「愛国婦人会」の3つの団体が存在していました。昭和17年にそれらは「大日本婦人会」に統合され、一宮にもその支部が置かれるという形になり、従来の婦人会は解散となります。

昭和20年、国民義勇隊の結成により大日本婦人会は解散となりますが、直

後に終戦を迎えてしまいます。一宮での婦人会は砂鉄採りの奉仕や戦死者の家庭の手伝い、海岸地帯の開墾などに従事したといえます。

戦後、他町村にさきがけ、昭和21年に「一宮町婦人会」の名称で新たに会が発足されます。そして今に至るまで、その活動は続いています。

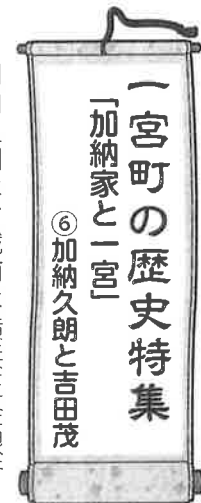
今も活発な活動を続けている婦人会のルーツは久宜夫妻の熱意にあり、その精神は今に脈々と受け継がれているのです。



▲ 婦人会発足式  
(中央右が加納久宜、左が鑑子夫人)

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416

平成30年9月号



一宮町の歴史特集

「加納家と一宮」

⑥ 加納久朗と吉田茂

加納久朗は、戦前は横浜正金銀行（現三菱UFJ銀行の前身の一つ）の銀行員として、戦後は政財界において広く活躍した人物です。そこでの人間関係は多岐にわたり、その詳細は高崎哲郎氏著『国際人・加納久朗の生涯』に書かれています。ここでは吉田茂（1878～1967）との交流を取り上げます。

吉田と久朗の出会いはいつだったのでしょうか。久朗は昭和9年（1934）に横浜正金銀行のロンドン支店長に就任、昭和18年まで務めています。一方、吉田は昭和11年から3年間駐英大使としてロンドンに駐在しており、2人はそこで出会ったとみられます。

彼らがロンドンにいたころは世界的に反日感情が高まっていた時期でした。昭和6年の満州事変、それに起因する同8年の日本の国際連盟脱退、同12年の盧溝橋事件に始まる日中戦争の勃発など



▲ 加納久朗宛吉田茂書簡（「加納家史料」所収、昭和15年か）の一部。中央付近に「加納老台」（久朗）の名前がみえる。

【問合せ】 教育課 ☎(42)1416